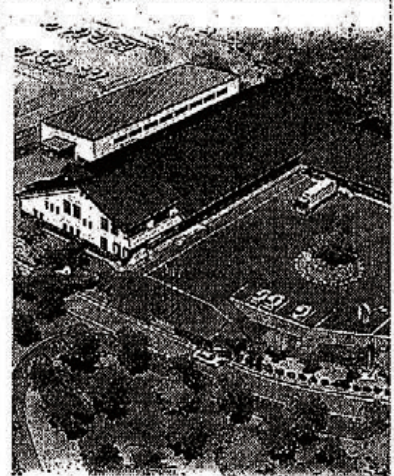


タイム技



3年前、取引先からの要望に応え、機器の基板実装に加え、組み立ても開始した。これまで下呂工場内の一部に間仕切りを設置して組み立てを行っていたが、手狭になっていた。

また、水処理関連機器に



の半田商工会議所で、夏休みの子ども向け向けイベント「キッズ応援団サマースクール」を開いた。半田商工会議所金融部会との共催。半田市と周辺地域の児童と保護者60人が参加した。

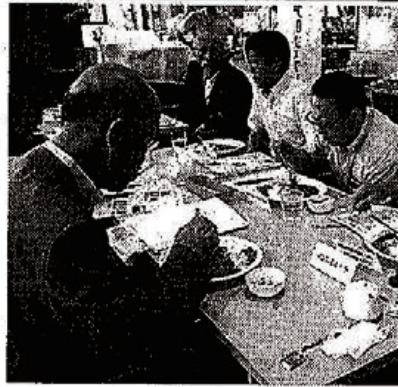
サマースクールは、正しいお金の使い方を学びながら、経済に興味を持ってもらう金融教室に加え、夏休みの思い出づくりも兼ねて業や学校に呼び掛けて2011年に発足した。

モサイクタイトルアート教室は、手のひらサイズの木製機関車の玩具に、さまざまな色合いの小さなタイトルを張り付けて裝飾する工作に挑戦した。親子で協力しながら、世界に一つしかない機関車の玩具づくりを楽しんでいた。

サマースクールは、同金庫の女性職員でつくる企画チーム「F&T幸せのクロバープロジェクト」が中

「ひつじカレー」を新名物に

一宮で「ひつじカレー」を新名物に
一宮で「ひつじカレー」を新名物に
一宮で「ひつじカレー」を新名物に



一宮で「ひつじカレー」を新名物に
一宮で「ひつじカレー」を新名物に
一宮で「ひつじカレー」を新名物に

【一宮】一宮活性化プラン協議会は8日、尾張一宮駅前ビル（iビル）のレストラン「イチモ」で、羊肉入りのご当地カレー「138ひつじカレー」の試食会を開催した。

7月に一宮市日光町の修文女子高校の生徒らと1回目の試食会を実施した。その際、提供した4種類の中で最も人気の高かったカレー

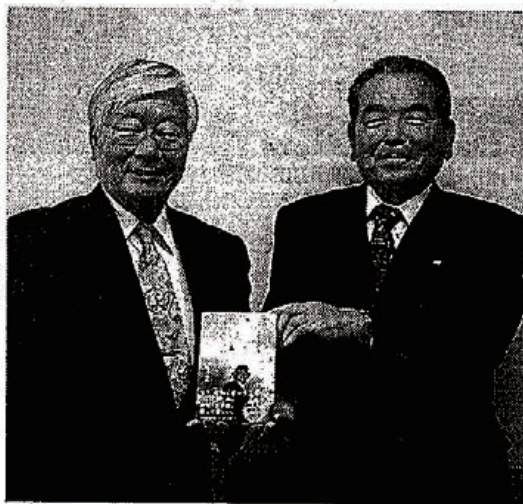
138ひつじカレーは、10月1日にiビルで開かれる「ひつじカレーフェスタ」で、市民138人に味わってもらう。また、尾西信用金庫の「年金感謝デー」である12月15日、来店客にパッケージ化したカレーをプレゼントする予定。

同協議会は5月からひつじカレーの開発を行っていた

KTXの創業者で会長の野田泰義氏（74）はこのほど、幼少期のエピソードから現在に至るまで自身の半生をつづった書籍「破天荒でいいんだ KTX・野田泰義の世界観」（232頁、定価は税込込み1728円）を、中部経済新聞社から出版した。

野田氏は、まだ電気製造が日本に浸透していなかった1965年に、江南特殊工業（現在のKT-X）を創業した。少年期に、従弟（いとこ）の勝弘氏が鋳物工場で危険を伴いながらも懸命に働く姿を見て、電鋳の実現化こそが自分の使命だと確信したという。

破天荒な半生、一冊に



そして、起業から17年の歳月を経た1982年、実用化困難といわれた技術「ポラス電鋳」の開発に世界で初めて成功し、国内

半生をつづいた「破天荒な半生」を出版した野田氏（右）と著者の藤原氏

「体験」が解決策生む

「破天荒でいいんだ KTX 野田泰義の世界観」出版

また、疎開先の郡上市八幡町での日々や臨済宗正眼寺で体験した修行など、幼少期から少年期に起こった出来事が、人生の原点として詳細に語られている。

著者はノンフィクションライターの藤原弘明氏。藤原氏の娘の夫が江南特殊工業の社員であったことがきっかけで、2003年に野田氏と出会う。野田氏の人

の応援歌